

◆ *Yokoso Obara Linkai*

Take Free [0円]

# おはらのじかん

— 第17号 —

2019 Summer

巻頭  
特集

小原歌舞伎保存会に聞いた

## 小原歌舞伎

よっ 待ってました!



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」

おばちゅう  
以外でもOK

[www.facebook.com/obachuu](http://www.facebook.com/obachuu)

[郷土料理箱寿司]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]

# 小原歌舞伎保存会に聞く 小原歌舞伎

## 巻頭 特集



左から会長の永江さん、鈴木さん、山地さん、中垣さん

### 【きっかけ】

鈴木さんは小原中学校在学中に小原歌舞伎クラブに入学し、そこで演技をしたのがきっかけです。中学卒業後も声がかかり、それ以来ずっと続けているので、年齢は31歳と若いのに歌舞伎役者歴は20年という大ベテランです。

一方山地さんは、以前出演役者の一部を各自自治区から輪番で出してもらっていたことがあり、それきり役者を始めたそうです。当時歌舞伎に縁もゆかりもなかった山地さんは、実際に小原歌舞伎を見て「すごく本格的にやっており、残さなければいけない文化だ」と感じたそうです。今では12年ほど続けており、無くてはならない存在になっています。

### 【醍醐味】

やはり達成感とのこと。本業が非常に難しい課題だと言います。保存会の人達はみんな、小原歌舞伎を残していけないといけないという思いで活動を続けています。

最近では歌舞伎伝承館ができたことで、小原歌舞伎の知名度も上がり、小原地区外からの役者の方も参加してくれるので非常に助かっているそうです。しかし、小原地区内からの役者はまだまだ少ないので、もっと参加して欲しいそうです。

また、子ども歌舞伎は子どもの教育上にも良い機会なので、子どもの中に経験し、大人になった時に保存会に入ってくれれば嬉しいと話してくれました。

### 【大募集】

保存会の会員数は現在20名ですが、高齢化もあり、会の維持も大変になっているので、定年を迎えて時間の出来た方にもぜひ入って頂きたいそうです。舞台には役者以外にも裏方の仕事も多くあり、舞台作りなど少しでもできることで関わって頂けると非常にありがたいと永江会長は言います。

サポーターはもちろん、今後小原歌舞伎を支えていく方々が増えると良いと感じました。

T.S

別にあるなか時間を作り、短い間で練習を重ねているそうで、化粧をし衣装を身につけ舞台に立った時のお客さんの拍手や「良かったよ。」と声をかけてもらうことが達成感につながっているそうです。なかには一度経験するとやめられなくなってしまう人もいます。

### 【特徴】

役者以外の太夫（たゆう）や三味線なども全て自前でやっているところが他の歌舞伎と違う特徴で、振付や三味線は岐阜と三重の流派が混じり、小原独自の節回しや見栄になっているのも特徴です。藤岡地区や石野地区へは小原地区から教えに行ったりすることもあるそうです。

### 【演技力】

地区外や遠方からも見に来て

小原地区内で年2回の定期公演や全国各地での上演なども行い精力的に活動している小原歌舞伎保存会。保存会の役員でもあり役者でもある、鈴木祐輔さん(31)と山地清太さん(60)を中心に小原歌舞伎についてお話を伺いました。

### 【小原歌舞伎年表】

江戸中期	神社へ奉納する地狂言として始まる。
明治中期	地芝居を会得した芸達者な人達が万人講という俳優座を組織。人気を博す。
昭和30年	神社での上演が途絶える。
昭和35年	万人講の興行も最後となり、小原歌舞伎の歴史は一度幕を下ろす。
昭和46年	新聞社主催で地芝居が農村舞台で上演。これを契機に旧万人講の有志が小原歌舞伎復活に向けての署名活動を始める。
昭和47年	未曾有の豪雨により小原地区が甚大な被害を受ける。しかし、「こんな時こそ小原歌舞伎でみんなを元気にしよう!」と奮起し、小原歌舞伎愛好会が発足
昭和50年	「小原歌舞伎保存会」と改称
平成元年	小原村の無形民俗文化財に指定(合併後、豊田市に引き継がれる)

### 【ラグビーワールドカップ2019TM開催に伴う、小原歌舞伎出演の日程予定】

日	日	時間	場所	内容
9月23日(月祝)	駅前ステージ	15時50分〜16時20分	駅前ステージ	所作体験
9月28日(土)	スカイホール	16時20分〜16時50分 13時10分〜13時30分	駅前ステージ	隈取体験
10月5日(土)	駅前ステージ	16時30分〜17時00分	駅前ステージ	上演(白浪五人男) 隈取体験



迫力の演技の山地さん(左)

沢田地区の地狂言



左から太夫の鈴木さん、三味線の大地さん

### 【歌舞伎の見方】

わかりやすいのはやはり見栄を切るところです。ツケ打ちの木が鳴り始めたら、見栄が決まるひとつの見所になるので、ぜひ注目して下さい。そこで声をかけたり、おひねりを投げたりするのがまずはじめの楽しみになるそうです。

普通の会社員が仕事の合間に頑張つてやっているところも見ていただけると励みになるそうです。

その他にも小原交流館にある歌舞伎伝承館では、歌舞伎の体験学習等のイベントも開催しているので、それに参加してみるのも良いと思います。近日には「見栄を切つてみよう。役者にチャレンジしてみよう。」という体験学習も開催されるそうです。

### 【課題】

やはり担い手不足で、師匠からの知識や技の伝承が難しいことが一番の課題だそうです。

師匠はひとつの演目を教えるにしても、役者の動きから三味線太夫の全てを知っていないとできません。師匠の後継者を育てたいが、そうなるも役者の人員が減つてしまふ。それでも、現役の師匠がいる今のうちにどうにかしたいといけない、と危機感を感じているそうです。

また、習得に時間のかかる三味線と太夫の後継者を育てること

母国を離れ小原歌舞伎で活躍する  
ウェイさんに話を聞いてみた



舞台後、ウェイさんのお友達との記念撮影の様子

今回、タイから外国人技能実習生として小原に来日し、小原歌舞伎で活躍されているウェイさん、本名・ストーリーカフックコーンにお話を聞かせて頂きました。とても明るく前向きな方で、終始楽しい雰囲気での取材となりました。

**日本に来たきっかけ**

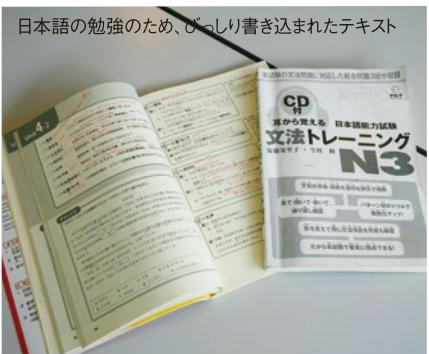
一度きりの人生、色々な経験をして自分を進歩させたい、という思いから平成28年に来日されました。

それまでも母国のタイで大手メーカーの研究者として活躍をされていましたが、日本の技術を学びたい、日本語を学び通訳や日本語講師の仕事をしてみたいという思いを實際に行動に移し、現在は小原の企業で働いています。

**日本に来てみて**

最初は言葉が通じないなどの苦労があったそうです。しかし今回の取材では日本語での会話や文字の上手さにとっても驚きました。聞いてみると来日以來ずっと早起きして参考書を勉強したり、日本の曲を歌ったり書いたり、日々の努力を続けているそうです。

困ったことはタイと日本のルールの違い。初めは仕事をする上でも生活をする上でもタイと比べて厳しい日本のルールに戸惑ったそうです。でも今はもう慣れて会社の



日本語の勉強のため、びしり書き込まれたテキスト

**五月公演に出演してみた**  
「もう嬉しかった。素晴らしかった。」その言葉に尽き、タイの友達も見に来てくれて「めっちゃ上手いですね〜」「きれいですね〜」と褒めてくれたのが嬉しかったそうです。そして公演後の打ち上げでみんなと大盛り上がりしたことが最高の思い出だと話してくれました。

**最近の趣味は日本の一人旅**

東京、大阪、京都、三重、ディズニーストリート、ユニバーサルスタジオジャパンなど色々な場所を訪れていて、次は沖縄に行く予定とのこと。お気に入りには三重県の伊勢神宮だという。東京や大阪のような都会よりも歴史や自然が感じられる場所が好きなんだそうです。



日本語でセリフを言う、ウェイさん

T.M

小学六年生 井戸 柑太くん

今回、こどもの代表として、本城小学校六年生・井戸柑太君にインタビューしてきました。



**早速だけど、緊張した？**  
全然、しなかったです。

**へえー、すごいね。歌舞伎はいつから習い始めたの？**

三年生から始めたので、4年目になります。初舞台は、セリフが無かったけど一番緊張したのを覚えてます。

**始めたいと思ったきっかけは？**

元々、お姉ちゃんが習っていて、演目中、沢山のおひねりを浴びているのを見て「いいなあ。」と思いました。

**確かに、おひねりのシャワーだったね。**

いつもあの演目(菅原伝授手習鑑 吉田社頭 車曳)なの？  
いえ、三〜四種類あります。

**へえー、じゃあ毎回公演に向けて「から練習してるんだね。大変じゃない？」**

初めて習うのは大変だけど、経験した事のある演目は、他の役も含めて馴染みがあるので、大丈夫です。

**稽古の時間、真剣で大変そうだけど、どうかな？**

真剣だけど、それ以外の時は、自由なので大変じゃないです。終わりに、いつもおやつくれるし。

**それは嬉しいねえ。始めたころと、今とでは続けている気持ちの変化はあるかな？**  
歌舞伎を楽しんでやっています。大人になっても続けたいと思っています。

**十月の「文化まつり」公演に向けて、皆さんにメッセージをお願いします。**  
精一杯、頑張るので、ぜひ、おひねり持って観に来て下さい！



五月公演での井戸くん(中央)ハプニングで帽子がずれてしまった

「自分の周りは興味ない人が多いけど、観に来てね。と言うと友達や先生が来てくれる。」と話す柑太君。私も恥ずかしながら初めて「五月公演」で、こども歌舞伎を観て「感動感心」した二人です。その表情は、歌舞伎への楽しさと伝統芸能を習っている事への自信が伝わり、また感心させられました。インタビュー、ありがとうございました。

J.I

上司や周りの人たちとも仲良しだと話してくれました。

**小原歌舞伎保存会に参加したきっかけ**  
小原交流館で行われた「隈取体験」への参加がきっかけ。日本の文化や生活、日本人の性格などを知りたいという思いから平成29年に小原歌舞伎保存会に参加されました。

**小原歌舞伎保存会に参加してみよう**  
歌舞伎で使う言葉や発音が難しいなどの苦労もありましたが、メンバーみんなが優しく教えてくれたり親切にされる中で、母国を離れて寂しかった心が温まり、ウェイさんにとって歌舞伎保存会は家族みたいな存在になったそうです。

# 郷土料理 箱寿司

小原商工会女性部の皆さん

郷土料理、それは地域に根付いた産物を  
使って独自の方法で調理し、地域で広  
く伝承されている固有の料理のことです。そ  
んな郷土料理が小原にもあります。それは、  
江戸時代から作られているといわれる「箱寿  
司」です。当時は秋祭りや人寄せなどで振  
舞う料理であつたそうです。具材は季節折々  
の野菜と、蜂の子や卵などで作ります。素材  
を一品ずつ調理し、手間暇かけるのが箱寿司の  
醍醐味です。そんな心温まる伝統の味を今に

伝えるの  
が小原商

工会女性部の皆様です。

毎年行われている小原歌舞伎五  
月公演での幕間の食事に、「箱寿司」  
をチャリティーで販売し、多くの方に  
その魅力を伝えていきます。家庭でも  
あまり作らなくなった現在、地元の方  
にも「懐かしい」と喜ばれ、この日  
を楽しみにされる高齢者の方は少  
なくありません。そんな、歴史ある  
郷土の味を後世に伝え、小原歌舞伎  
と共に手間をかけるぬくもりの大  
切さを守っていくのが私たちの使命  
なのです。

K.K



箱寿司

# おばらちゃんの小原日記



# 山寺 de 婚活

新しい出会い、ワクワク

ドキドキしますよね。

この婚活は

自分を見つめ直す。

体をリフレッシュする。

いなかの風景や自然の中で、日ごろの自分をリ  
セットし、さらに、素敵な出会いに繋がります。雨  
が降っても、それもまた風情のあるイベント。ぜ  
ひ、気楽な気持ちでご参加ください。



9月8日(日)豊田市市場町の廣圓寺にて  
参加費・男性3千円 女性2千円  
ドレスコード・軽い運動のできる服装  
参加条件・30〜50代男女  
開催時間・午前9時30分受付開始〜午後3時30分  
男女15名ずつで締め切らせていただきますので、  
お早めにお問い合わせください。  
電話・090-3484-2039 (海老澤咲子)

# 小原いろいろ情報

〔8月15日(木)〕

小原夏まつり〜花火大会  
(小原ふれあい公園)

小原地区の夏まつり。盆踊りや間近で見られる打ち上げ花火や手筒花火は必見

〔9月14日(土)〕

おばら杉田久女俳句大会  
(小原交流館)

小原で過ごした俳人杉田久女を顕彰する俳句大会

〔10月20日(日)〕

小原文化まつり  
小原歌舞伎公演  
(小原交流館)

小原歌舞伎の公演をはじめ、小原地区の芸能や交流館講座の発表会

〔11月1日(金)〜30日(土)〕

小原四季桜まつり  
(小原地区)

今年の小原ふれあい公園の出店は11月9日〜11月30日となります。

〔11月9日(土)〕

豊田小原和紙工芸作家  
工房めぐり(小原地区)

無料バスに乗って作家の工房を訪ね

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク   
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

おばら以外の人でもOK!  
小原の情報ページ『おばらゆう卒』是非登録してね!  
www.facebook.com/obachuu

# 小原白宇感

編集後記

辞めるのは簡単だけど継承するのが難しいという言葉が印象的でした。小原歌舞伎を続けるのは陰の苦勞があることがとても良くわかりました。私もサポーターには入っていますが他にもできることをしたいと感じました。

T.S

今回取材した小原歌舞伎の方は共通してイキイキしていた。もちろん1人で過ごす時間も大切だが仲間と苦樂を共にすることで得られるものの大きさを再認識した。そんな参加型の伝統文化が残る小原はやっぱり魅力的だ。

T.M

日常、何も考えず読んでいたが、今回始めて作成に携わった事で、作り手の伝えたい思いや分かりやすく伝える努力が詰まっている事を知りました。これから、読む向き合い方が変わります。貴重な学びに感謝です。

J.I

小原で生まれて50年。(サバを読みたいところですが...)温かい地域の方に育てて頂きこんなに大きく成長することができました。小原の自然と人、地域のぬくもりに浸かりに来ませんか?両手を広げて待っています。

K.K